

取組の成果を実感する学校改善を目指して ～目標の共有と組織的・計画的な取組の工夫～

釧路市立清明小学校
学 級 数 16
(校長 高田 孔平)

I はじめに

本校は平成30年度から「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校として、管理職のリーダーシップの下で学校が一つのチームとなった包括的な学校改善に取り組んだ。

今年度は、学校の組織的・計画的な取組の一層の充実を図るため、①調査結果やグランドデザインを踏まえた目標の共有、②日常の授業改善を図る学力向上の取組、③体育専科教員を中心とした体力向上の取組、④組織力の向上を図る人材育成の取組の4点を重点とし、取組を進めることとした。

II 調査結果やグランドデザインを踏まえた目標の共有

1 本校児童の現状（一部抜粋）

(1) 平成30年度全国学力・学習状況調査（算数）の結果 ※（ ）は平成29年度の結果

	全 体	数と計算	量と測定	図 形	数量関係
算数A	▽ (▽)	▼ (▽)	－ (－)	▼ (▼)	▽ (▽)
算数B	▽ (▽)	▽ (－)	▼ (▽)	▼ (▼)	▽ (▽)

－：平均と同様
▽：平均を5P以上下回る
▼：平均を10P以上下回る

児童質問紙 「算数の勉強が好き」54.4%（全国比－9.6P 全道比－7.5P）

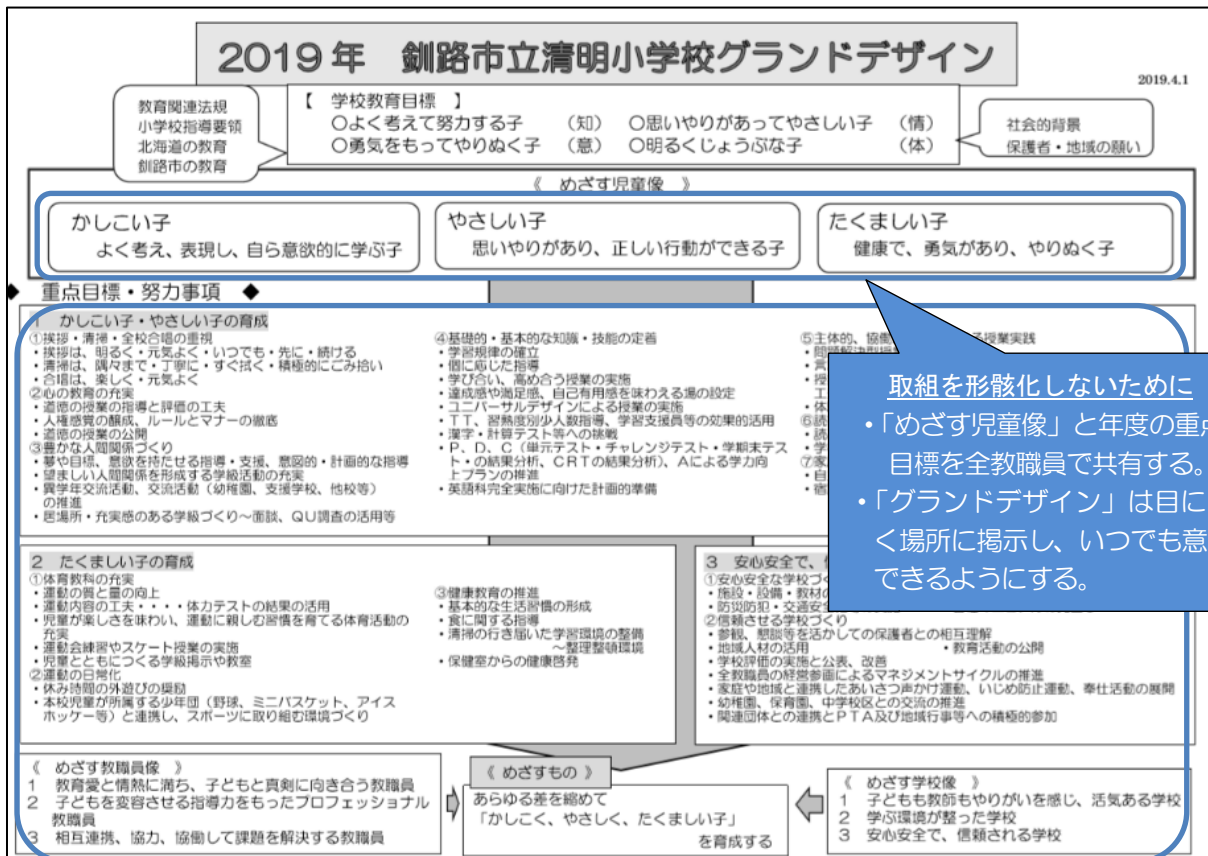
「算数の授業の内容が分かる」70.2%（全国比－13.2P 全道比－11.5P）

(2) 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査から

男子は長座体前屈、反復横跳び、50m走、女子はソフトボール投げで全国平均を下回る。

2 令和元年度 釧路市立清明小学校グランドデザイン ～経営の重点～

本校児童の現状を踏まえ、「めざす児童像」の実現に向けた取組を全教職員で共有した。



3 今年度の目標の共有

年度当初、職員会議や校内研修において「日常の授業改善を図る学力向上の取組」、「体育専科教員を中心とした体力向上の取組」「組織力の向上を図る人材育成の取組」の視点から数値目標を設定し、学校全体で共有し、目標の達成を目指し取組を進めた。

平成31年度 釧路市立清明小学校 共有する数値目標（一部抜粋）

【日常の授業改善を図る学力向上の取組】

- 全国学力・学習状況調査「算数」で正答率を全道平均と同等
- 「算数の勉強は好きですか」の設問で肯定的回答が70%以上
- 「算数の授業の内容はよく分かりますか」の設問で肯定的回答が80%以上
- 釧路市標準学力検査「算数」実施学年全てで目標値以上
- 学期1回以上の生活リズムチェックシート活用
- 毎月の「学習の約束」で全項目 2.8P 以上

【体育専科教員を中心とした体力向上の取組】

- 新体カテストの総合評価C以上の児童の割合 男子75%女子80%以上
- 「1週間における授業以外での運動やスポーツの合計時間が1時間未満」と回答する児童
男子5%女子10%未満
- 「体育の授業は楽しい」と回答する児童 男子90%女子85%以上
- 「体育の授業では、授業の始めに目標が示されている」と回答する児童
男子75%女子85%以上
- 「体育の授業では、授業の最後に学んだ内容を振り返っている」と回答する児童
男子70%女子80%以上

【組織力の向上を図る人材育成の取組】

- 月1回以上のメンターチーム方式による研修会実施
- 一人年1回以上の研修会等への参加
- 毎日の管理職による授業観察及び必要に応じた指導

Ⅲ 日常の授業改善を図る学力向上の取組

1 「見通し」と「振り返り」に焦点を当てた授業改善

昨年度から、「自らの学びを次へつなげようとする子どもの育成～見通しと振り返りの積み重ねによる思考力・判断力・表現力等の充実を目指して～」を研究主題として研究を進めた。

まず、日常の授業から、基本的な指導過程として、「課題提示（見通し）→個人思考→対話（集団解決）→まとめ→振り返り」を意識して指導することについて共通理解を図った。

本研究では、特に、「見通し」と「振り返り」に焦点を当て、その充実を図ることにより、授業改善を図ることをねらいとしている。右図で示しているように「見通しと振り返り」という1枚の羽に風が当たると、全体が効果的に回転を始めるという授業改善のイメージを共有した。

「見通しと振り返り」の授業改善の方策については、次のような指導の手立てを明確にして取り組んだ。

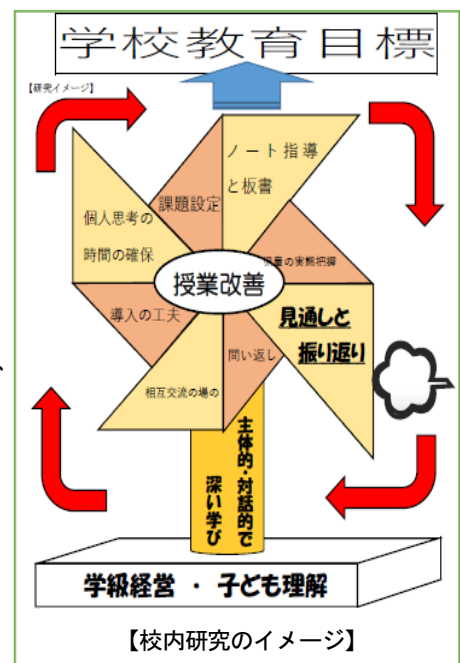
【見通す場面での指導のポイント】

- ・児童が「どんなことに着目して」「どのような過程」で学ぶのかを示すようにする。

（例）音楽科「のばすところや強弱に気を付けて歌おう」等

【振り返る場面の指導のポイント】

- ・本時の目標に照らして、①学んだ結果の感想、②考えの変容、③次に生かしたいこと等、何を振り返らせるのか具体的に示す。



取組を形骸化しないために

- ・「見通しと振り返り」に関わる児童アンケートを実施する。
- ・毎日、管理職による授業観察を行い、日常の授業改善に生かす。

2 継続して、自己の学習を振り返る取組

「学習の約束・自己評価カード」を活用し、児童が自分の学習について、毎月振り返るようにするとともに、結果を集計し、全教職員で実態を共有し、指導に生かした。

また、「学習の約束・自己評価カード」は、保護者に配付し、共有するなどして、保護者との連携を一層図った。

チェック項目	達成状況			
	12月	11月	10月	9月
1 毎日、家庭学習に取り組む。				
2 毎日、20分以上 家庭学習している。				
3 毎日、学習用具をそろえる。				
4 読者が はじまる前に、ちやうど読んで じゆかに待つ。				
5 はじまる時 おわりの あいづつを、きちんとする。				
6 長い 短 長のしりとりが、身についている。				
7 長い 短 長の読み方が、身についている。				
8 長い 文字の書き方が、身についている。				
9 トイレやお風呂に行く前、つぎの時間の学習の準備をする。				

【「学習の約束・自己評価カード」の例】

3 各種調査問題や「ほっかいどうチャレンジテスト」の活用

全国学力・学習状況調査問題や「ほっかいどうチャレンジテスト」を、単元や学期のまとめ、長期休業中の学習サポート等で活用した。また、「ほっかいどうチャレンジテスト」は、採点后、見られた課題については、即、指導するようにした。

IV 体育専科教員を中心とした体力向上の取組

1 体育専科教員を中心とした授業改善

体育専科教員が指導計画を立てT1として、各学級担任がT2として体育授業を行った。1単位時間の基本的な指導過程として、「ウォームアップ→(主運動に関わる動き)→体づくり運動→課題提示→主運動→関わり合い→振り返り」を位置付けた。

T1である体育専科教員による運動のポイントの提示や教材・教具の工夫、児童が自身の動きを視覚的にとらえるICTの有効活用等は、T2の教員にとって大きな学びとなり、各学級担任の授業力の向上が見られた。

また、外部人材の活用として、「ひがし北海道クレインズ」の選手による体力テストの演示や釧路市健康推進課の事業を通じたプロのダンサーによるダンス教室、北海道教育大学釧路校教授等による器械運動サポート等、専門的な指導により、児童の運動意欲や技能の向上を目指すとともに、体育専科教員だけでなく、各学級担任の授業力向上を図った。



【体育専科教員による「体育新聞」】

取組を形骸化しないために

- 各学級担任のニーズをとらえ、体育専科教員が定期的に授業づくりのアイデア等を発信する。
- 体力向上計画に基づき、PDCAサイクルを意識した取組にする。

2 児童が運動に親しむための環境整備の工夫

体育専科教員が中心となり、児童が運動に親しむことができるよう調査結果を踏まえ、環境を整備した。

(1) 清明ボールパーク (ソフトボール投げ等の投の運動)

体育館の壁に、的当てを設置し、児童が気軽に投運動をできるようにした。発達の段階に応じて、ボールの重さや大きさ等を選べるようにし、どの児童も楽しめるように工夫した。



【清明ボールパーク】

(2) にぎにぎチャレンジ～先生たちに挑戦だ!～ (握力)

握力計やハンドグリップを児童玄関ホールに設置し、各教員の握力の記録を写真付きで掲示した。児童の体力の状況に応じて取り組めるような様々な種類を準備した。



【にぎにぎチャレンジ】

(3) 清明ジャンプジャンプ広場 (立ち幅跳び等の跳の運動)

体育館の壁面にテープでバレーボールネットの高さ、ミニバスケットボールのリングの高さなど体育に関係するものから、身近な人の身長など、児童の体力の状況に応じて取り組めるような様々な高さを掲示した。



【清明ジャンプジャンプ広場】

V 組織力の向上を図る人材育成の取組

1 若手教員の育成

学校力向上に関する総合実践事業実践指定校である本校は年2名ずつの新採用者が着任している。今年度は、初任段階教員が6名(24%)在籍しており、その6名を全教職員で温かく見守り、指導し育てる体制や風土をつくり、初任段階教員の育成に努めた。

(1) メンター研修

初任段階4年次の教員が初任段階教員のリーダーとして、研修計画の立案と実施に向けた調整を行うようにした。

研修計画の立案では、他の初任段階教員が「知りたい、聞きたい、興味があること」について、アンケートを実施し、内容を決定した。研修の1回の実施時間は30分以内とし、年間を通して、ベテランの教員を講師として、計画的に実施した。

【アンケート集約結果】 (◎は複数名からのリクエスト)

- ◎ 教室環境
- ◎ 所見の書き方・レポーター
- ◎ 保護者対応の仕方
- 新学習指導要領移行について気を付けること
- 算数科の学習指導の在り方
- 学級通信・懇談会資料
- 生徒指導の在り方
- 授業観察のポイント
- 仕事の優先順位
- プログラミング教育 等

(2) 校内組織の工夫

研修部で立案した研究の取組が学校全体で日常の授業改善につながることを意図して、初任段階教員の4名を研修部に所属するようにした。このことにより、研究の理論が具体化され、効果的に学校としての取組が推進されている。

また、研究部以外に所属した初任段階教員は、中学校区における近隣4校の連携協議会において外国語科を担当するなどの役割をもたせるようにした。

2 ミドルリーダー層の育成

ミドルリーダー層の教員は、各種調査結果の分析を中心的に行い、取組の成果や課題を全校で共有することに努めた。

また、ミドルリーダーが北海道立教育研究所や釧路教育研究センターの研修講座等から学んだことを校内に発信するなどして、校内で共有した。

取組を形骸化しないために

- ・年度当初に設定した目標に立ち返る。
- ・全教職員が取組の成果を実感できるように具体的に示す。

3 学校力向上に関する実践指定校との実践交流

釧路市内の学校力向上に関する総合実践事業の実践指定校及び連携校による取組の交流を年3回行い、「学校マネジメント」、「人材育成」、「教育課程・指導方法等」、「地域・家庭との連携」について成果と課題を共有した。

また、実践指定校の公開研究会等に全教員で参加し協議したことにより、ミドルリーダーや初任段階教員等、それぞれの立場から、学校が一つのチームとなった学校改善の在り方について理解を深めることができた。

VI 成果と課題

- 年度当初に本校の目指す姿、実践指定事業、今年度の客観的な数値目標について全職員が確認し共有し、取組を進めることができた。
- 年度始めと2学期に実施した児童アンケートを比較すると、次の項目で肯定的な回答の割合が増えた。

- ・「算数の学習の内容が分かる」と回答した児童の割合が、目標値である80%を上回った。
- ・「自分の考えや感想をもつことができた」と回答した児童の割合が、目標値である80%を上回った。
- ・「振り返りをするすることで、自分たちが学んだことを整理できる」と回答した児童の割合が、90%を上回った。

- 新体力テストの体力合計点において、全学年男女が全国平均を上回った。
- 全国学力・学習状況調査の算数科においては、全国及び全道平均との差が縮まっているが、全領域で全国平均を下回っていることから、言語活動の充実を図るなど、思考力・判断力・表現力等を育成するための指導を工夫する必要がある。